

連

載

電子技術者のための特許マニュアル

第9回

米国特許情報を 入手しよう！



大嶋洋一

前回(本誌2002年4月号)に引き続き、米国の特許について説明する。今回は、実際に米国の特許情報を取得するための方法を述べる。米国特許商標庁のホームページを利用して特許情報を得ることができるが、その際には、文献番号による検索、キーワードによる検索、特許分類による検索の三つのアプローチがある。(編集部)

産業規模に比例して、米国の特許情報の存在は特許の世界で重要な位置づけとなっています。そこで今回は、米国の特許情報の収集方法について紹介します。原則的には日本の特許情報を収集する方法と変わりませんが、米国の特許情報の検索時に生じる特有の留意点があります。ここでは、そうした点を中心に紹介することにしましょう。

1 米国特許商標庁のデータベースを利用する

日本の特許情報を検索する場合と同じように、米国の特許情報も原則として米国特許商標庁が提供しているデータベース^{注1}を利用することをお勧めします(図1)。もちろん、インターネット・サービスの進んでいる米国には、このほかにも特許についての情報源が豊富にあります^{注2}。ですから、使いやすさなどを考慮して、各自がお気に入りのデータベースを選択することもできます。ただ、公的機関である米国特許商標庁は、データベースへのアクセス情報を通じてデータ・マイニング(大規模なデータベースからの有用な情報の抽出)などは行わないと宣言しているので、その点で私企業よりもプライバシー保護については安心できます。

注1：米国特許商標庁のホームページのURLは<http://www.uspto.gov/>

注2：例えば、IBM社の関連会社であるDelphion社は無料で利用できる特許データベースを提供している(<http://www.delphion.com/>)。

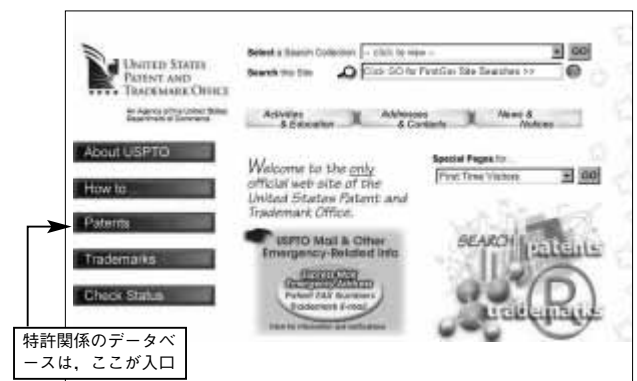
2 米国特許情報の基本的な検索

米国の特許情報を得るには次のような方法があります。

- 1) 文献番号による検索
- 2) キーワードによる検索
- 3) 特許分類による検索

それぞれの手法について実例を用いて紹介しましょう。

図2は、特許検索(Search Patents)のメニュー画面です。この画面の左側と右側に同じような検索メニューが見られます。左側は特許になった文献を対象にしたデータベース、右側は公開公報を対象にしたデータベースです。成立の有無にかかわらず出願してから18ヵ月を経た出願のうち、出願人が非公開を希望しないもの、または外国ですでに公開されているものについては、米国でも公開されます。ここでは、利用する頻度が高いと思われる特許文献を対象にしたデータベースについて説明していきます。



【図1】米国特許商標庁ホームページのトップページ

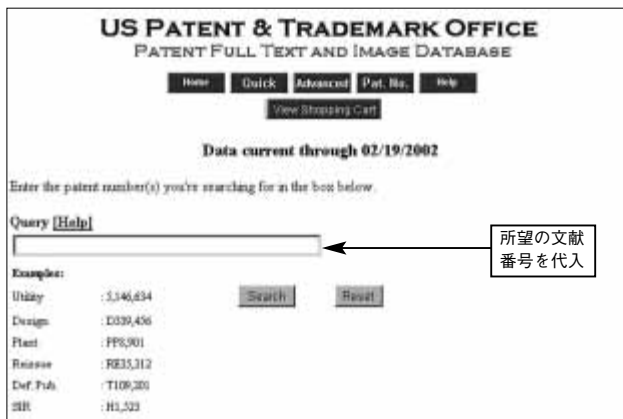
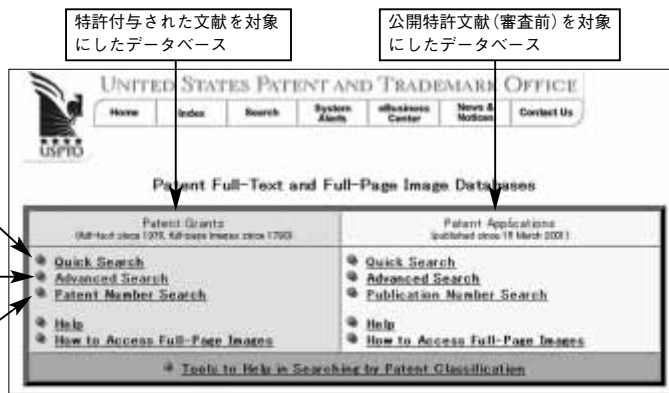
米国特許商標庁のホームページには、米国の特許・商標に関する貴重な情報が提供されている。今回は、特許文献を対象にしたデータベースの利用のしかたを説明するが、機会があればほかの項目にも興味深い情報が含まれているので、ぜひ積極的に新たな情報源として開拓してほしい。

〔図2〕

特許文献データベースのトップページ

左欄のデータベースは、特許が付与された文献を対象にした特許文献データベースである。右欄は、最近特許法の改正により導入された公開制度に基づく公開特許文献を対象にしたデータベースである。また、各メニューは、“Quick Search(条件式が二つ以下の場合に有効)”，“Advanced Search(本データベースの最大限の検索が可能)”，“Patent Number Search(特許番号から検索)”という使い分けができる。

条件式が二つ以下の場合に利用
 詳細検索の場合に利用
 文献番号から検索



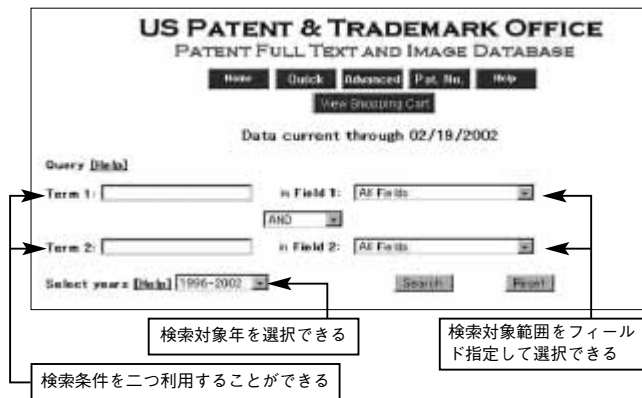
〔図3〕 文献番号による検索画面

文献番号から検索する場合には、“Query(検索式)”の例に示されたような形式で代入すればよい。文献番号がわかっているとき、その内容を知りたい場合などに利用する。

メニューには、“Quick Search”，“Advanced Search”，“Patent Number Search”という三つのアプローチが提示されています。各アプローチにはそれぞれの目的に応じて、適したアプローチがあるのでケース・バイ・ケースで使い分けが必要が必要です。ここでは、概略、文献番号から検索する単純な場合にはPatent Number Searchが、検索条件が二つ以下であればQuick Searchが、二つ以上の複雑な検索式を用いるときにはAdvanced Searchが有効だということを覚えておきましょう(図3～図5)。

●文献番号による検索

これは文献番号がわかっているとき、その番号を検索式に代入して検索する方法です。前述したメニューから、Patent Number Searchというデータベースを利用して特許番号を代入するのがいちばん簡単な方法です。もっとも、Quick SearchやAdvanced Searchでも文献番号によって検索できます。Quick Searchであれば、検索対象範囲で



〔図4〕 Quick Search 画面

この検索画面では、条件式が二つまでに限定されている。検索対象年をいくつかの区切りから選択するなどの制限があるものの、定められた箇所に検索式を代入すればよいので、簡単な条件式の検索が可能である。

あるフィールドをPatent Numberに設定して文献番号を代入すればよいし、Advanced Searchでは検索対象範囲を設定するフィールド・コード「PN/」に続けて文献番号を書いた検索式を用いれば、同じような検索が可能です。

●キーワードによる検索

キーワードを用いた検索は、Quick SearchやAdvanced Searchで利用できます。検索を実行するためには、検索したい語と検索したい範囲を設定する必要があります。

検索したい語については、英語固有の語尾変化などに気をつけて代入する必要があります。この語尾の取り扱いを“Truncation”と言います。例えば、電気関係の同義語を広く検索したいとき、「Elec\$(ここで\$をワイルド・カードという)」という検索式を用いると、Elecから始まる単語(electricity, electric, electronicなど)をすべて検索できます。また、2語以上の連結したフレーズで検索したい場合、ダブルコーテーション(“ ”)で囲むことにより指定す